〔診断指導事例〕

診断報告書作成におけるIT の活用

労働安全コンサルタント　三浦　大像

安全診断報告書を事例として診断報告書作成におけるIT の活用について紹介する。報告書作成の前段階である受注前活動，報告書作成作業およびこれら作業の基盤設備について記述する。

１．診断業務／支援ツールとしてのIT

安全診断業務の各プロセスに沿って紹介する。

1.1　受注前活動

ア．広報活動

①ホームページの作成とISP（Internet Service Provider）またはホームサーバーへのUpload（ソフトの設置）

ホームページは一般的にはHTML（Hyper Text Markup Language）というコンピュータ言語を使って記述して作成する。この言語の知識が必要であるが，簡便なホームページビルダー等のソフトがあり，これを利用して作成する方法が取られている。より簡便な方法はWORD プログラムを使用して，文書を作成する。必要に応じ画像も文書の中に貼り付ける。WORD の機能だけで一般的なホームページの表現は満たすことが可能である。例えばクリックして指定のページ或いは他のホームページに移動させるのであれば，その表現をマウスでなぞってシャドウ付けし，「挿入」の「ハイパーリンク」でファイル名あるいはURL を入力して指定する。文書が完成したら，これを「ファイル」の「Web ページとして保存」を指定すればHTML 言語に変換されて保存される。但しこのファイル名は半角英数字で８文字以内にする。トップページはindex.htm が使われる。なお，アクセスカウンター，Mail to,返事を求めるフォーム窓などの飾り機能はISP の定めるHTML 言語で記述し，挿入する。上記ホームページのHTML 文書をText 形式で開き，HTML 言語で表示されている箇所で飾りをつけたい箇所を修正し，上書き保存する。付属する資料等をUp する場合Text あるいはWORD 形式の文書を上述の方法でHTML 形式としてUp することができる。

HTML 形式での欠点の１つはブラウザ（IE，Netscape 等）の表示する窓の大きさによって表示される行数等が変わってしまい，意図した形での表示と違ってくる。Acrobat のpdf 形式では（書いた形で見える）機能によりブラウザの窓に影響されない。さらにAcrobat のセキュリティ機能を利用して，保存，印刷，コピー等は不能で表示のみにすることができる。知的所有権を守りながらUp できる。この作成法はAcrobat プログラムをインストールするとWORD に結合され，メニューバーにAcrobat が追加され，WORD で文書を作成した後「Acrobat PDF への変換」で行う。ファイル名はホームページにUp する場合の半角８文字以内の制約は同様である。Acrobat の欠点は表示までやや時間がかかることである。

ホームページをUpload する場所はISP のメールサービスに付属している無料のホームページホスティングを利用する。５～10ＭＢ が提供されているので２～３ＭＢ の通常のホームページには充分な大きさであろう。

診断指導事例◇◇◇

◇◇◇

診断指導事例◇◇◇

◇◇◇